

事業の成果

**[1] 子どもの権利条約の推進及び、子どもの諸活動に関する支援事業**

●チャイルドライン事業

18才までの子どもがかけられる子ども専用電話「ふくいチャイルドライン」は16時～21時、毎週月曜日の福井ラインと第1第3木曜日の奥越ラインで2,461件の電話を受けました。受け手継続研修会は10回開催し事例検討の他、子どもの権利条約や発達障害について学び受け手の質の向上を目指しました。今年度も教育委員会の協力を得て県内の小中学生にカード55,000枚を配布しました。また高校や公民館にもポスターを送付しチャイルドラインを広く周知しました。事件があった池田中学校には再度「安心してかけられる電話がある」ことを伝えるリーフレット、カードを届けました。

●みんなのあそび事業

あべこべ学校2017では、子どもが先生、大人が生徒になって伝えることの難しさや心地良さを体験しました。自然体験活動では小学生を対象にして秋や冬の森で散策を楽しみました。

●子どもフェスティバル事業

5月20日、駅前ハピリン広場ハピテラスにおいて福井市、FBCとの共催でハピリン1周年記念「ボクたちのお店！」を実施しました。子どもフリーマーケット「ボクたちのお店！」は年々参加申し込みが増え、小学生の関心の高さがうかがえました。10月1日には「ふくいうらんキッズ2017」を開催しました。春に好評だった「ボクたちのお店！」の他、中高生のパフォーマンスらいぶやプロの大道芸などもあり多くの人を楽しんでいました。

●木田児童クラブサポート事業

木田児童クラブ・第2木田児童クラブ運営委員会の委託を受け、行事企画に関するサポート、支援員の教育に関するサポート、保護者へのサポート及び苦情に関すること、この3つの柱を基本に運営業務をサポートしました。

**[2] 子どもと文化に関する交流、サポート及び人材育成事業**

●表現やコミュニケーションを伝える事業（うめだ演劇工房）

ドラマ・エデュケーションの手法を取り入れて子どもたちが表現活動を楽しく体験しました。演劇キッズ2017では継続したお芝居作り、ごっこランドでは子どもたちが遊びを通して自由に表現しました。また適応指導教室では他者とのかわりが苦手な子どもたちにコミュニケーションを指導しました。

●大人が学び合う講座事業

「困難を抱えた子どもへの理解と支援」をテーマにして3回の講演会を実施しました。特に発達障害を取り上げた講演会には多くの子ども関係者の参加がありました。

**[3] 文化事業の企画、調査並びに文化事業に対する協力及び連携事業**

●県内小学校・幼稚園・社協・その他子育て関係団体に舞台や人形劇などを紹介しました。夏休みに福井市児童クラブ連絡協議会との共催で人形劇「怪じゅうが町にやってきた」を上演し、多くの子どもたちが生の舞台を鑑賞しました。

**[4] 出版及び広報事業**

●広報誌「こどもChannel」を年間3回、計7500部発行しました。特集「子どものチ・カ・ラ」は去年から継続しているテーマです。子どもNPOセンターの支援者、子ども関係団体、教育機関、公共施設などに送付しました。